

1 か

ペリシテをあらかじめ征服したサムエル

I サム 3:19 サムエルは成長した。主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とされなかった。

1. ハンナの祈りが答えられました

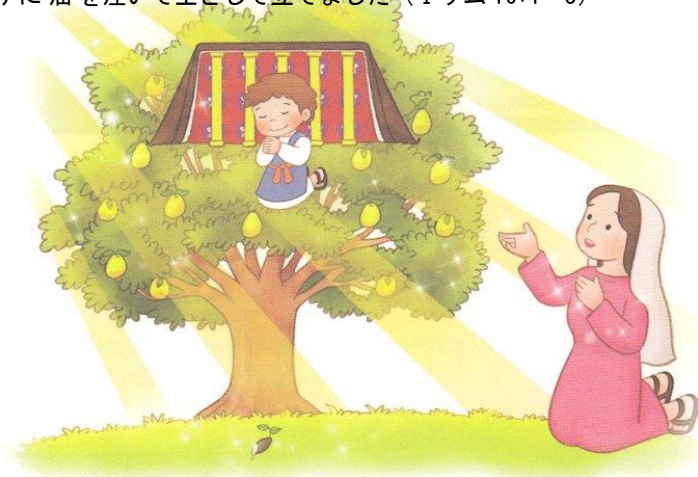
- 1) ハンナは誓願を立てて、男の子を授けてくださるなら、ナジル人として育てると約束しました (I サム 1:9~11)
- 2) ハンナは祈りに答えてくださった神様をほめたたえました (I サム 2:1~10)
- 3) ハンナが誓願したとおりに、サムエルは幼い時から神殿で育ちました (I サム 3:1~3)

2. サムエルはあらかじめ征服しました

- 1) 主がサムエルのことばを一つも地に落とされませんでした (I サム 3:1~19)
- 2) ペリシテとの戦争で契約の箱が奪われる事件が起こりました (I サム 4:1~11)
- 3) ペリシテから契約の箱が戻ってきました (I サム 6:1~18)
- 4) サムエルがミツパ運動をはじめました (I サム 7:1~15)

3. サムエルには3つの業績があります

- 1) すべての民が偶像を捨てるようにしました (I サム 7:1~10)
- 2) サムエルが国を治めているとき、戦争がなくなりました (I サム 7:13)
- 3) ダビデに油を注いで王として立てました (I サム 16:1~3)



せいじつ
聖日みことばのタイトル

せいじつせいしよかしよ
聖日聖書箇所

06

せいじつ しゅじつ
聖日 (主日)

れいはい じゅんび せいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
みことばをわたくし せいかつ てきよう
に適用することまで、すべてが礼拝です

れいはい しゅんび
礼拝の準備のチェック

☒ せいしよ
聖書

☐ けんきん
献金

☐ ひっきようぐ
筆記用具

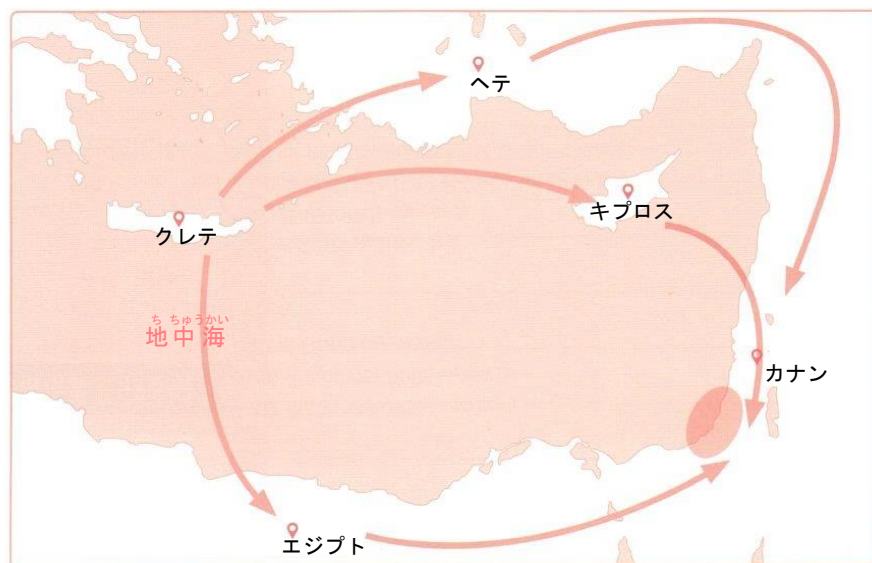
☐ <こどものいの祈りの手帳>

☐ しゅうほう
週報を読む

いっしゅうかん
一週間握るみことば

ペリシテはどんな国でしょうか

ペリシテ人はノアの二番目の息子、ハムの子孫（創世記10:14）です。彼らの一部が地中海を渡って「クレテ」という島（エレミヤ47:4、アモス9:7）に住むようになりました。そして、次第に海の近くに住む海洋民族になりました。



ペリシテの侵略過程



ペリシテの5大都市

また、ペリシテ人は、ほかの民族と違って、鉄で作った強い武器を使いました。この武器は、まわりの国が持っていた武器よりも優れていたため、カナンの地の人々を簡単に追い払って（申命記2:23）、ペリシテ人が本来暮らしていた環境と似た海辺の地を占領するようになりました。

イスラエルに危機が訪れました！



カナンの海辺の地を占領したペリシテ人は、イスラエルを攻撃し始めました。しかし、イスラエルの民は、それに備えることができていませんでした。神様から遠く離れて偶像に仕えて、みことばより自分自身の考えをさらに重要に思っていたからです。何人かの士師（指導者）の活躍によってペリシテ人を追い出したこともありましたが（士師3:31、13～16章）、結局、神様の契約の箱を奪われてしまいました（1サムエル4:11）。

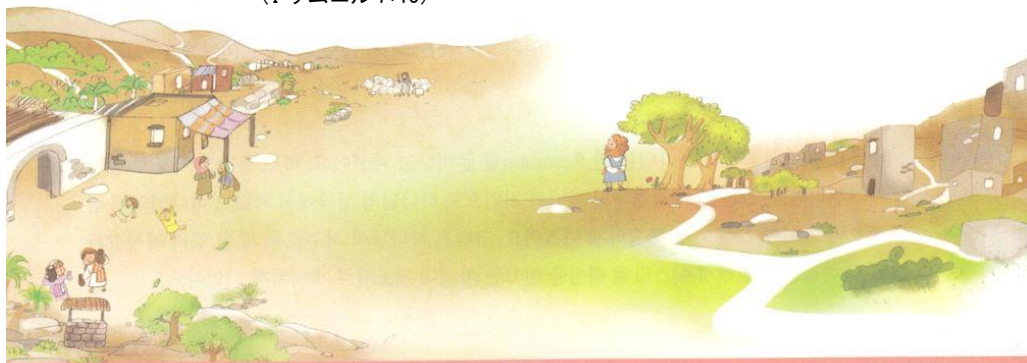
このようなみじめな状況の中で、神様はひとりのレムナントを準備しておられました。そのレムナントがハンナの祈りによって生まれたサムエルです。サムエルは幼い時期から、ハンナが誓ったとおりに神様の幕屋で育ち、神様の御声を聞いて、そのみことばをとても大切にしました。そして、神様が預言されたとおりに死んだ祭司エリとその息子たちに代わって、イスラエルの民を導く指導者として立てられました。

ミツパ運動を通して危機から逃れました！

指導者として立てられたサムエルは、イスラエルの民を「ミツパ」という地域に呼び集めました。そして、そこで、このように宣言しました。

「もし、あなたがたが心を尽くして主に帰り、あなたがたの間から外国の神々やアシュタロテを取り除き、心を主に向け、主にのみ仕えるなら、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出されます。」
(1 サムエル 7:3)

このことばを聞いたイスラエルの民は、それまでのことを反省して、隠していたすべての偶像を捨て始めました。そして、心を尽くして主にのみ仕えたと決心しました。ちょうどそのときにペリシテ人が攻め込んできたのですが、神様は大きな雷鳴をとどろかせ、イスラエルを勝利させてくださいました。それからサムエルが指導者である間は、ペリシテ人がイスラエルの国を攻撃できないように、神様が守っておられました。
(1 サムエル 7:13)



STEP 1

若いサムエルは、祭司エリの二人の息子とはちがう生活をしていました。どんなちがいがあったのか、みことばを見て書いてフォーラムしましょう。

祭司エリの二人の息子 (1 サムエル 2:12、17)

サムエル (1 サムエル 2:18、26、3:19)

STEP 2

ミツパ運動の意義はなんだったのでしょうか。ペリシテ人に勝つことができた意義は何だったのかを見つけて書いて、フォーラムしましょう

STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう
学院福音化メッセージを聞いて、あらかじめ征服することができたサムエルの意義は何だったのかを書きましょう。そして、書いた内容を私の生活でどのように実践することができるのかをフォーラムしましょう。

せかい せいふく
世界をあらかじめ征服したダビデ

詩 78:70~72、1サム 16:23

主はまた、しもベダビデを選び、羊のおりから彼を召し、乳を飲ませる

雌羊の番から彼を連れて来て、御民ヤコブとご自分のものであるイスラエルを牧するようにされた。彼は、

正しい心で彼らを牧し、英知の手で彼らを導いた。(詩 78:70~72)

1. 羊飼いのとき、あらかじめ征服しました（詩 78:70～72）
 - 1) 詩篇を書きました
 - 2) 技能を磨きました
 - 3) 王の器を備えました
2. ダビデはあらかじめ征服しました
 - 1) 主の霊が激しく下った人でした（Ⅰサム 16:13）
 - 2) ダビデが立琴をひくと、わざわいの霊が離れました（Ⅰサム 16:23）
 - 3) ゴリヤテとペリシテ人の前で、神様の救いを宣言しました（Ⅰサム 17:1～47）
 - 4) 朝と夜に神様に祈りました（詩 5:3、7:3）
 - 5) 昼にも祈りました（詩 23:1～6）
3. あらかじめ世界福音化を味わいました
 - 1) すべての民に神様の救いをあかししました（Ⅰサム 17:1～47）
 - 2) 神殿建築をあらかじめ準備しました（Ⅰ歴 29:10～14）



せいじつ 聖日みことばのタイトル

せいじつせいしょかしよ
聖日聖書箇所

13

せいじつ しゅじつ
聖日（主日）

れいはい じゅんび れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
わたし せいかつ てきよう
みことばを私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です
れいはい

れいはい じゅんび
礼拝の準備のチェック

- ☒ いししょ 聖書
- ☐ けんきん 献金
- ☐ ひつぎようぐ 筆記用具
- ☐ こどものいのり いのりの手帳 てちよう
- ☐ しゅうほう 週報 よを読む

いっしゅうかん^{にぎ}
一週間握るみことば

いったい私たちの王はだれでしょうか

イスラエルを率いた預言者サムエルが年をとってきたので、イスラエルの人々はまた、ペリシテ人を恐れはじめました。さらに、次の後継者としてサムエルの息子たちが指名されたのですが、彼らはお父さんであるサムエルとは違って、自分の利益によって動く指導者だったので、すでに人々の信頼はありませんでした。そこでイスラエルの人々は、ペリシテから国を守ることができる王が必要だと思いました。(I サムエル 8:5)



しかし、神様はそれを良い考えだとは言われませんでした(I サムエル 8:7-8)。その理由は、イスラエルを率いるまことの王は神様ご自身であり、イスラエルの平和は強い軍事力によってもたらされるのではなく、神様ご自身がともにおられるときに与えられるという、ミツバ運動を通して知らされた事実を、彼らが忘れていたからです。

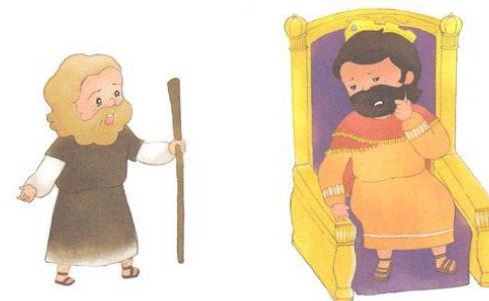
サムエルはイスラエルに王を立てれば、良いことよりも悪いことの方が多く起こるという神様のみこころを語って警告しました(I サムエル 8:11-18)。人々は、このことばを聞こうとはせず、王を立ててくださいと言い続けました。そこで、神様は彼らが願うとおりに、王を立てることを許されました(I サムエル 8:22)。



サウルを王として立てたのですが問題が起きました

神様はイスラエルの民の願うとおりに王を立てるため、ベニヤミン部族のサウルを選ばれました(I サムエル 9:15-17)。人々はこれですべての問題が解決すると思っていました。ところがサムエルの警告したことが現実になってしまいました。王になったサウルは高慢になって、主なる神様のみことばを聞こうとせず、神様の命令に聞き従わなくなりました(I サムエル 13:1-23, 15:1-35)。彼は神様のみことばより、人々のことばや人気をもっと重要だと思ったからです(I サムエル 15:24)。

結局、神様はサウルから離れてしまいました(I サムエル 16:14-23)。こうしてイスラエルの国は、再びペリシテからばかにされ、危機を迎えることになるのです(I サムエル 17:1-54)。





かみさま き き なか じゅんび 神様は危機の中でダビデを準備されました

かみさま れい はな かみさま とお ひつじか
神様の霊がサウルから離れたのですが、神様はサムエルを通して羊飼いだっただビデを
め 召され、彼に 油 をそそぎ、新しい王として選ばれました（I サムエル 16:1-13）。

おう
ダビデはサウル王とはちがって、おさないときから特別に神様によって備えられていま
した。



- ・ダビデは羊を飼う羊飼いの場で、詩と賛美を味わっていました
- ・まかされた羊を一匹も失わない実力も兼ね備えていました

ひつじかい
羊飼いをしていたときに備えた、猛獣から羊を守った石投げの技術は、イスラエルを
ばかにしていたペリシテの兵士ゴリヤテを倒すことに用いられました。

ゴリヤテを倒すことによってサウル王の娘の婿になったダビ
デはすべてが順調に見えたのですが、イスラエルの民の人氣が
サウル王よりも高くなると、それをねたんだサウル王によって、
命を狙われるようになります。こうしてサウルから逃げるた
め、ダビデは荒野とペリシテをさまよいあらゆる苦しみにあつた
のですが、この時間を通して、苦しみの中でも神様で満足して勝ち
抜くことができる力を備えました。

このようなダビデに神様は祝福をそそいでくださいました。ア
ブラハムに約束された契約（創世記12:1-3）が、ダビデを通して
成就する答えを与えてくださいました。そして、士師の時代から悩
まされ続けてきたペリシテを完全に征服する答えも受けました。
ダビデが統治した時代のイスラエルは、歴史上いちばん偉大な国、
平和な国として祝福を受け、さらにダビデはイエス・キリストの
系図に加えられるという光栄な祝福を受けました。



STEP 1

「人はうわべを見るが、主は心を見る」と言われています。下の聖書箇所には、サ
ウルとダビデの心の中心が表れています。聖書から書き写して、サウルの心と、
ダビデの心のちがいにについてフォーラムしましょう。



サウル（I サムエル 15:24）



ダビデ（詩篇27:4）

STEP 2

ダビデの苦しみは、神様が彼を偉大な指導者として立てられるために必要な過程で
した。いま、苦しいこと、とてもつらいことはなんですか。そして、そこにある神様
の計画はなんでしょうか。いっしょにフォーラムしてみましょう。

STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう

学院福音化メッセージを聞いて、世界をあらかじめ征服するしかなかったダビデだ
けの奥義はなにかを下に書いて、フォーラムしましょう

あらかじめ^{せいふく}征服したエリア

I 列 18:1~40 それから、かなりたって、三年目に、次のような主のことがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう。」そこで、エリヤはアハブに会いに出かけた。そのころ、サマリヤではききがひどかった。(1~2)

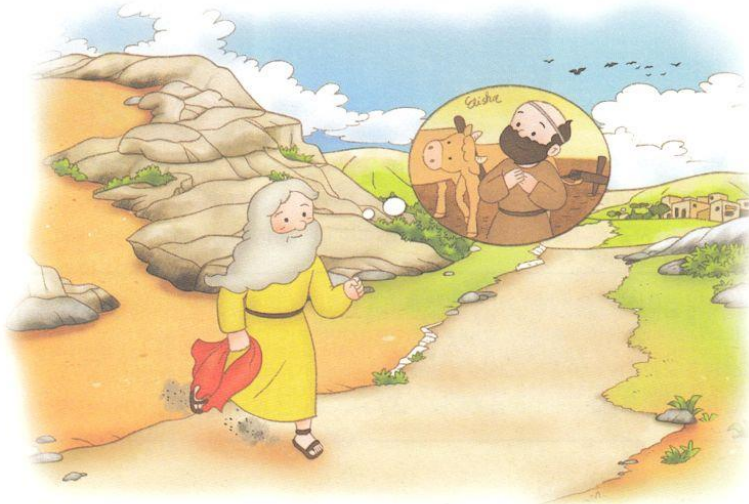
1. エリヤはだれですか

- 1) 荒野の人で祈りの人でした (Ⅰ列 19:10)
- 2) ギルアデの人でした (Ⅰ列 17:1、Ⅰ列 1:3)
- 3) 日照りを預言して雨を降らせたり、多くの奇跡を行った預言者でした (マタ 17:1~9)

2. エリヤはあらかじめ^{せいふく}征服しました

- 1) カルメル^{さん}山の^{れいてきせんそう}霊的戦争^{しゅやく}の主役でした（Ⅰ列 18:1～40）
- 2) 雨^{あめ}を降^ふらせる奇跡^{きせき}で、アハブ王^{おう}の前に神様^{かみさま}の力^{ちから}を現^{あらわ}しました（Ⅰ列 18:41～46）
- 3) ホレブ^{さん}山であらかじめ征服^{せいふく}しました
 - (1) 御使^{みつか}いが助^{たす}けました（Ⅰ列 19:1～8）
 - (2) 7000弟子^{でし}の契約^{けいやく}を受けました（Ⅰ列 19:18）
 - (3) エリシャ^たを立てました（Ⅰ列 19:19～21）

3. アハブ王とアラムの国の征服をあらかじめ知らせてもらいました（Ⅰ列 2:1～11）



せいじつ 聖日みことばのタイトル

せいじつせいしょかしよ
聖日聖書箇所

20

せいじつ しゅじつ
聖日(主日)

れいはい しゅんぱ れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
わたし せいかつ てきよう
みことばを 私の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です
れいはい

れいはい じゅんび
礼拝の準備のチェック

- ☒ せいしょ
聖書
- ☐ けんきん
献金
- ☐ ひっきようぐ
筆記用具
- ☐ こどもの^{いの}祈りの^{てちよう}手帳
- ☐ しゅうほう^と
週報を読む

一週間握るみことば

くに 国が2つに分かれました

ときが経ちダビデは年をとり、神様はダビデの後継者としてソロモンを立てました。神様はソロモンに神殿を完成させる栄誉を与えられたのですが、彼が犯したいくつかの失敗はブーメランのように返って来て、ソロモンの息子レハブアムが王になったとたん、国は分かれてしまいました。

イスラエルの7代目王アハブ

南のユダはソロモンの息子レハブアムが、北のイスラエルはソロモンの家来であったヤロブアムが治めるようになりました。そして、時間が過ぎて北イスラエルの王としてアハブが登場します。

北イスラエルの7代目王アハブは、強力な軍事力と経済力を持っていた王でした。神様は彼をすべての王たちのうちで最も悪いと言われました(1列王 16:28-33)。その理由は、偶像を崇拜する祭司の娘 イゼベルを妻として迎えて、北イスラエルのすべての地域に偶像を崇拜する神殿と祭壇、そして、像を作ったからです。アハブ王は、それだけではなく、イゼベルとともに神様に仕える預言者を捕まえて殺しはじめました。



レムナントエリヤの登場!

アハブ王が預言者を殺しはじめたころ、エリヤは北イスラエルの周辺に位置するギルアデという地域に住んでいました。エリヤは神様だけを恐れた預言者でした。そこで神様は、エリヤを通してイスラエルの地に日照りが続いてききんになるというみことばを預言されました。長い間、日照りとききんが続いたので、アハブ王はエリヤを探して責任を問おうとしたのですが、見つけることができませんでした。

カルメル山での霊的戦争がはじまりました

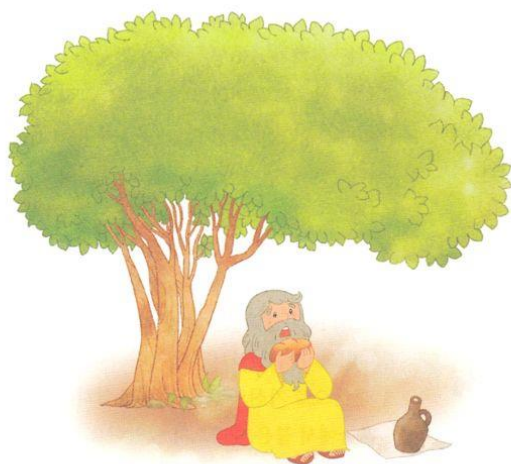
アハブ王の臣下オパデヤを通して、とうとうエリヤとアハブ王が向き合いました。エリヤはアハブ王にバアルに仕える預言者450人、アシェラに仕える預言者400人をカルメル山に集めるように言います。そして、カルメル山で、イスラエルの民が見守る中、有名な霊的戦争が始まりました。

エリヤはバアルの預言者に、たきぎの上にいけにえを載せて名を呼んだとき、火をもって答える神、その方が神であると言いました。この挑戦を受け入れたバアルの預言者は、一日中バアルの名を叫びながら祭壇の周囲を回って踊り、剣や槍で自分のからだを傷つけて血を流すまでしました。しかし、火は降って来ませんでした。



エリヤは遠い昔から崩れていた、主の祭壇を築き、いけにえの上に水を注いで神様に祈り始めました。すると、主の火が降ってきて、水とそのまわりをすべて焼き尽くしてしまいました。イスラエルの民は、そのとき、はじめて主なる神様だけが唯一の方であると告白して、エリヤはバアルの預言者をすべて処刑しました。そして、神様は長い間の日照りとききを終わらせて、雨を降らせてくださいました。(I 列王 18:41)

しかし、アハブ王よりも残忍な王妃イゼベルはこれをそのままにはしませんでした。王妃イゼベルは怒ってエリヤを殺そうとしたので、エリヤは荒野に追われる身分になってしまいました。一日中逃げて、からだど心が疲れたエリヤは、えにしだの木の下の下座りました。完全に絶望してしまって、神様に自分を連れていってほしいという祈りをささげました。そのようなエリヤに神様は焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の入ったつぼひとつを与えた後、ホレブ山に導かれました。そして、そこでエリヤが望んでいた偉大な奇跡より、かすかな細い声で臨まれる神様を悟らせてくださいました。(I 列王 19:11-12)。そして、彼に新しい使命を与えてくださいました。



STEP 1

みことばを聖書から見つけて書いて、どんな状況の中で与えられたみことばかをフォーラムしましょう。

I 列王 19:11-12

STEP 2

上の箇所のように、私がとてもつらかったときに支えてくださった、かすかな細い御声、神様のみことばはありますか。あれば書いて、いっしょにフォーラムしましょう。

STEP 3

メッセージを聞いてフォーラムしよう
学院福音化メッセージを聞いて、あらかじめ征服するしかなかったエリヤだけの奥義はなにかを書いて、いっしょにフォーラムしましょう。

あらかじめ^{せいふく}征服したエリシャ

Ⅱ列2:9~11 ^{しゅ}主がエリヤをたつまきに^{てん}乗せて天に上げられるとき、エリヤはエリシャを連れてギルガルから出て行った。エリヤはエリシャに、「ここにとどまっていなさい。^{しゅ}私が^{わたし}私をベテルに^つ遣わされたから」と言ったが、エリシャは言った。「^{しゅ}私は生きておられ、あなたのたましいも生きています。^{わたし}私は決してあなたから^{はな}離れません。」こうして、彼らはベテルに^{くだ}下って行った。(1~2)

1. エリヤに選ばれました（Ⅰ列 19:19～21）

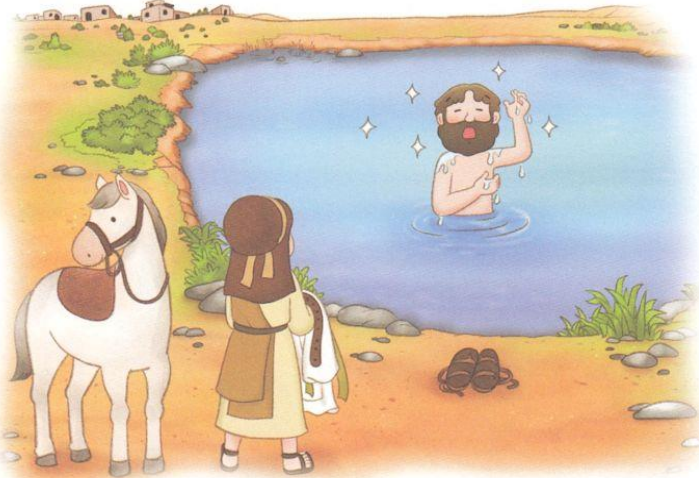
- 1) 天命てんめいを受けましたう
- 2) 召命しょうめいを受けましたう
- 3) 使命しめいを受けましたう

2. 戦わずにあらかじめ征服しました

- 1) ^すすべてを捨てました(Ⅰ列 19:19~21)
- 2) ^{れいてきせいふく}霊的征服を^{じゅんび}準備しました(Ⅱ列 2:9~11)
- 3) ^{たたか}戦わずに^{くに}アラムの国を征服しました(Ⅱ列 6:8~23)

3. 3. ^{じっさい} ^{せいふく} 実際に征服しました

- 1) 100人の^{にん}預言者^{よげんしや}が準備^{じゅんび}されていました
- 2) 7000弟子^{でし}が隠^{かく}されていました
- 3) ドタンの町運動^{まちうんどう}の主役^{しゅやく}でした



せいじつ 聖日みことばのタイトル

せいじつせいしょかしよ
聖日聖書箇所



せいじつ (しゅじつ)
聖日 (主日)

れいはい しゅんぴ れいはい
礼拝の準備をして礼拝をささげ
みことばを わたし せいかつ てきよう
私 の生活に適用する
ことまで、すべてが礼拝です
れいはい

れいはい じゅんび
礼拝の準備のチェック

- ☒ せいしよ
聖書
- ☐ けんきん
献金
- ☐ ひっきようぐ
筆記用具
- ☐ こ^{いの}子どもの^{てちょう}祈りの手帳
- ☐ しゅうほう
週報を読む

いっしゅうかんにぎ
一週間握るみことば

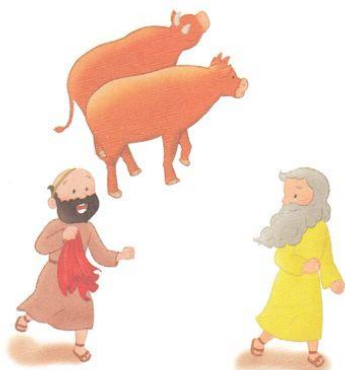
神様はみことばを成就されます！

ホレブ山で疲れて倒れたエリヤに神様が与えられた新しい使命は、ある人を見つけて油をそそいで立てなさいということでした。その人とは ① アラム地域のハザエル ② 北イスラエルのエフー ③ エリシャでした。(Ⅰ列王 19:1-21) これは、神様に敵対してバアルの偶像に仕えたイスラエルとオムリ王家(アハブとイゼベル)をさばくためです。そして、バアルにひざをかかめず、バアルに口づけしなかった 7,000 人を別に備えているというみことばもいただきました(Ⅰ列王 19:18)

みことばのとおりエリヤはエリシャを見つけて弟子として立てました。さらにエリシャを通してハザエル(Ⅱ列王 87-15)に神様のみことばが伝達されて油をそそいでエフーを立てました。その後、アハブ王はハザエルが属したアラムの国との戦争で死んでしまいました。そして、アラムの王になったハザエルは、神様を離れてバアルに仕えた北イスラエルをとても苦しめました(Ⅱ列王 8:12)。そして、イゼベルは神様のみことばどおりにエフーの謀反によって殺されました(Ⅱ列王 9:7、30-36)。

預言者エリヤについて行ったエリシャ

エリヤとエリシャの出会いを詳しく見てみましょう。
元々エリシャは、まわりの人々が認めるくらいの裕福な農夫でした。彼がいつものように畑を耕しているとエリヤが現れて、彼の外套を彼に掛けたのです。するとエリシャはすぐに決断して、彼が持っていたすべてのことを整理して、(Ⅰ列王 19:20-21) エリヤについて行きました。そして、エリヤが行くところどこであっても、最後まで彼に従い、見て、学びました。



エリヤが天に上げられる前に、エリシャになにをしてほしいのかと尋ねました。すると、エリシャはエリヤの神様が見せてくださったエリヤの霊の二つの分け前をくださいと言いました(Ⅱ列王 2:9-11)。これは、聖書では長子にのみ与えられる祝福のことを意味します。エリシャは、これからさらに崩れていくイスラエルと残された弟子を指導するために、長子の祝福が必要だと感じました。すると、エリヤはエリシャが願うことは難しいことだが、自分を連れていく神様のなさることを見ることができれば、必ずなされるだろうと言いました。結局、最後までその場を守って天に上がっていくエリヤを見たエリシャは、神様から力を受けて、イスラエルを導く霊的サミットの座に立つようになりました。



アラムの国のナアマン將軍をいやしました

その後、エリシャはエリヤと同じように、多くの不思議と奇跡を現わしました。特にアラムの国と関係する答えを見てみましょう。

エリシャは、アラムの国を危機から救った英雄であり將軍であったナアマンの病氣(ツアラアト)をいやして、あらかじめ征服する答えを受けました(Ⅱ列王 6:1-27)。病氣をいやしてもらったナアマン將軍は、主なる神様に栄光を帰して、その方だけに仕えると告白しました。

エリシャはドタンの町運動をはじめました

ナアマン^{しやうぐん}将軍の病氣^{びやうき}をいやしたのですが、アラムの国^{くに}とイスラエルの間^{あいだ}は依然として悪^{わる}いままでした。アラムの国^{くに}の王^{おう}は絶えずイスラエルを攻撃^{こうげき}したのですが、その度^{たび}に失敗^{しっぱい}しました。王^{おう}はその理由^{りゆう}が何か^{なに}になりました。まるで誰^{だれ}かがイスラエルにアラムの国^{くに}が攻め込んでくることをあらかじめ知らせているかのような感じがしたからです。結局^{けつぎよく}、アラムの国^{くに}はエリシャという預言者^{よげんしや}がいるから、そのようになっているという事実^{じつじ}を知ることになりました。すると、アラムの国王^{こくおう}は暗い夜^{くら}を利用して再び軍隊^{りよう}を送り、エリシャがいるドタンの町^{まち}を取り囲み^{かこ}ました。無数のアラムの軍隊^{むすう}を見たエリシャのしもべは怖^{こわ}がって震え^{ふる}ました。エリシャは彼^{かれ}に恐れる必要^{おそ}はないと言って、このように告白^{こくはく}しました。

「恐れるな。私^{わたし}たちとともにいる者^{もの}は、彼らとともにいる者^{もの}よりも多いのだから」
(Ⅱ列王 6:16)

その話^{はなし}を聞いたしもべの霊^{れい}的な目^めが開いて、ドタンの町^{まち}を囲んでいるアラムの軍隊^{ぐんたい}より、神様^{かみさま}の火^ひの馬^{うま}と火^おの戦車^{せんしや}がはるかに多いという事実^{じじつ}を知りました。そして、神様^{かみさま}はアラムの軍隊^{ぐんたい}の目^めをくらまして、戦^{たたか}わないで勝^かつようにしてくださいました。エリシャは彼ら^{かれ}を殺^{ころ}すこともできたのですが、殺^{ころ}すことなく、反対^{はんたい}に多くの食べ物^{たもの}でもてなした後^{あと}、送り返^{かえ}しました。これは、アラムの国^{くに}をあらかじめ征服^{せいふく}した歴史的^{れきし}な事件^{じけん}でした。

あらかじめ征服^{せいふく}した
エリシャ

STEP 1

つぎ
次^かのみことばを書^かきましょう。

Ⅱ列王 2:9

STEP 2

上^{うへ}のみことばは、エリヤについていったエリシャのことばです。
私^{わたし}がエリシャなら、どうしますか。自分^{じぶん}のことを考^{かんが}えて、自由^{じゆう}に書^かいてフォーラム
しまししょう。

STEP 3

メッセージを聞^きいてフォーラムしまししょう
学院福音化^{がくいんふくいん}メッセージを聞^きいて、あらかじめ征服^{せいふく}するしかなかったエリシャだけ^{おく}の奥^{おく}
義^ぎはなにかを書^かいて、いっしょにフォーラムしまししょう。